

ハ長調 2-5ポジションの音階

製作:市川亮平

はじめは音色だけ変え、慣れてきたらアルアイレ・アポヤンドの奏法もきりかえる。

赤い音符で音色・奏法の切り替えを行う。さらに慣れたらアルアイレとアポヤンドを逆にしての練習も行う。

奏法の切り替えは、まずはト長調で練習する。

2pos 5pos ② ① 3 4 3 1 4 2 ③ 2pos
 2 4 1 2 4 ③ sul ponticello al tasto sul tasto 2pos
 ⑤ ④ ③ アル アポ アル
 ④ ⑤

○sul tasto(読み:スル タスト イタリア語) 指板の上、近くで弦を弾く。

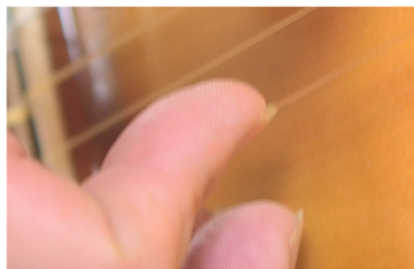
やわらかい音が出る。画像3の様に指、爪を弦に対して斜めにあてることで、よりやわらかい音が出る。



右手のフォームが崩れる可能性があるため、初めは画像1の様に指板上ではなく

その近く、サウンドホールの上辺りで弾き、慣れてきたら指板上での演奏を試してみてください。

○sul ponticello(読み:スル ポンティチェロ イタリア語) 駒の近くで弦を弾く。



右手のフォームが崩れる可能性があるため、初めは駒に寄り過ぎない方が良いでしょう。

また、爪の角度を弦に直角に当てたり(画像2)、指を普段より素早くたたんでも硬い音が出しやすいです。

sul tastoからsul ponticelloに移動する時は、右ひじの脱力で右手を落とすようにして移動します。

右肩を絶対に横に開かないように気をつけましょう。

○al tasto(読み:アル タスト 造語) 少しずつ指板に向かって右手を移しながら弾く。

硬い音から少しずつやわらかい音に変化させたいときに使う。

○al ponticello(読み:アル ポンティチェロ 造語) 少しずつ駒に向かって右手を移しながら弾く。

やわらかい音から少しずつ硬い音に変化させたいときに使う。